

「今後の県立高校に関する意見交換会(第1回)」記録要旨【岩手中部ブロック】

平成 27 年 5 月 22 日 (金)

花巻市文化会館 中ホール

【花巻市 参加者】

- ・今年度は地域の意見を聴くということだが、それを受けて高校再編は平成 28 年度からすぐに始めるということになるのか。
- ・大迫高校について、生徒が少なくなっても(ゼロになっても)存続してほしい。高校がなくなれば地域がなくなってしまう。
- ・地域検討会議と意見交換会について、地域に出向いて開催するということが、大迫や西和賀等、花巻市や北上市以外に出向くことはしないのか。

【 県教委 】

- ・今年度は具体的な高校再編計画の検討を行う予定である。高校再編の開始時期については、今年度地域の皆様の意見を聴いたうえで、具体的な再編計画を策定するものであり、その時期については現段階では決まっていない。
- ・平成 22 年にも代表者による会議と意見交換会を開催した。また、これ以外にも地域に出向いて意見交換をする機会を設けたこともあり、地域から要請があれば出向いて意見交換を行いたい。

【花巻市 参加者】

- ・1 学級定員について、地域の実情を踏まえ検討してほしい。改訂された基本的方向では、「独自の基準等様々な視点から検討」とあるが、この独自の基準とはどのようなものなのか。
- ・資料No.3 に示された、今後の入学者推計をもとに、ある時点をもって統合を行うという考えはあるのか。

【 県教委 】

- ・高校標準法における 1 学級 40 人を基本に、国からの財政措置がなされている。40 人より定員を少なくすると、国からの財政措置による教員の配置が減少することを考慮しなければならない。教員配置が少なくなると、生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導や、多様な教育課程の編成が難しくなることが考えられる。
- ・仮に 1 学級 35 人にした場合、学級数は増となっても配置される教員は減ることになる。これを、1 学級 40 人と同様の教員を配置するとなると、平成 20 年度に行った試算では、約 16 億円を県が負担しなければならなくなる。具体の独自の基準については、現段階ではまだないが、県全域は無理としても一部の地域で導入することが可能かどうかということも含め、他県の取り組み等も参考としながら、今後検討していきたい。
- ・統廃合については、平成 21 年度までの前計画では基準を示していた。今後、再編計画を策定する中で基準についても検討したい。

【西和賀町 参加者】

- ・平成 40 年度までの子どもの数はある程度確定しているので、それに対応して今後の高校の在り方を検討するということになると思う。

(次頁に続く)

- ・現在、国は地方創生に取り組み始めており、県や市町村についても同じような対応が必要になってくる。その中で、高校をなくすことにより、さらに地域の人口を減らすようなことをしてはいけない。むしろ、それを食い止める対応を練ってほしい。

【花巻市 参加者】

- ・資料No.3で、今後ますます生徒が減少する推測データを示しているが、生徒が減少するから学級を減らす、学校をなくすと言っているようだ。このようなデータを示せば地域が再編について納得すると思っているのではないか。
- ・教員の配置についても、国の財政措置が少なくなることを言っているが、その中で岩手県だからこうしたいというのが見えてこない。もっと積極的、具体的な内容を示してほしい。これでは、おどしとしか伝わらない。
- ・基本的方向性についても、抽象的な内容で小規模校に配慮したというだけで、具体的なものが見えてこない。

【 県教委 】

- ・資料No.3については、この推測を基に高校再編を行うというためのものではなく、生徒数の減少が各高校に与える影響について理解していただいたうえで、今後の学校・学科の配置について意見をいただきたいため、お示ししたものである。
- ・基本的方向は、今後、10数年先を見通した在り方等についてその方向性を示したものであり、具体的な高校再編については、今後、意見交換会等でいただいた意見を踏まえたうえで、示していきたいと考えている。具体的な意見を皆様からいただきたい。

【西和賀町 参加者】

- ・地域検討会議と意見交換会に分けて開催する理由は何か。

【 県教委 】

- ・地域検討会議は、各ブロックの首長・教育長、産業関係者、PTA関係者と地域の代表の方々から意見を聴くものである。意見交換会は幅広く県民の皆様から意見を聴くため分けて開催している。

【西和賀町 参加者】

- ・私自身、できるだけ多くの町民に、高校再編の話聞いてほしいと思っているが、なかなか聞いてもらえないのが残念だ。
- ・優秀な生徒を集めた学校を作るのもいいが、盛岡地区の大規模校や各ブロックの進学校の学校規模は維持し、その周辺の生徒が減少している学校の規模は小さくするという事なのか。
- ・高校がなくなることイコール町がなくなること危機感を持っている。西和賀高校には福祉コースがあり、生徒は少ないがボランティア活動等を通し地域と一体となっている。
- ・都市部に一極集中させるのではなく、様々な選択肢が地域にあることが大切である。西和賀高校には町外からも入学しているが、生徒が地域になじもうとしている。是非、地域に子ども達を残してほしい。

【西和賀町 参加者】

- ・西和賀町は合併以降、人口が2,000人以上減少している。この流れを止めることは難しく、一気に増やすことも無理である。教育の場は地域にとって大事なものであり、大事なものは官民一体となって話し合い考えていくことが大事だと思う。

(次頁に続く)

【花巻市 参加者】

- ・今回のような意見交換会は、今後も開催するのか。
- ・学区と地区割について、生徒減少が進むことで今後、変更する考えはあるのか。

【 県教委 】

- ・地域検討会議については、次回は7～8月頃に開催を考えている。また、意見交換会については市町村との連携をテーマに議論する地域検討会議の状況も踏まえ10～11月頃の開催を考えている。
- ・学区・地区割については、今回の高校再編計画と合わせて検討することは考えていない。平成28年度入試から一部入試内容の変更等もあり、その状況を見ながら、次の段階で検討することを考えている。

【花巻市 参加者】

- ・意見交換会について、テーマがはっきりせず内容がよく理解できない。もう少し論点を詰めていってはどうか。また、意見交換会は次回も予定しているということだが、大迫地区で開催していただきたい。
- ・地域ならではの活動として、神楽伝承活動等を実施している。若者がいるからこそ続けられるのであって、高校がなくなると若者が流出し伝承が難しくなる。
- ・全国には特長ある学校を作り、県外からも生徒が入学し地域を盛り上げている例もある。高校再編を考える際には、地域振興と併せて検討することが大切である。再編の結果、地域の過疎化に拍車がかかることのないようにすることが大事ではないか。

【 県教委 】

- ・地域検討会議では、今後、市町村との連携等について具体的なアイデア等意見を頂きたいと考えている。また、第3回の地域検討会議を開催する際には、併せて今回のような意見交換会も行う予定であり、検討会議での意見等も踏まえながら、皆様から意見を伺いたいと考えている。
- ・そのため、次回の意見交換会は10～11月頃の開催を予定している。それ以降も、地域からの要請があれば出向いて意見をお聞きしたい。

【花巻市 参加者】

- ・推薦入試を受検することで、学区外に生徒が流出している。また、かつては隣接する町から大迫高校への入学者もいたが、今は少なくなっている。学区外の基準の見直しが必要ではないか。

【西和賀町 参加者】

- ・市町村との連携について、これまで既に市町村との話し合いはもたれているのか。

【 県教委 】

- ・基本的方向の改訂案を公表後、平成27年2月に各ブロックにおける地域説明会を開催し御意見を頂いたが、それに併せて各市町村教育委員会を訪問し、各市町村の中学生の動向等をお聴きした。10～11月に予定している第2回の意見交換会では、教育の質を高めるためにどのような方法があるか等について、さらに意見を伺いたい。

【西和賀町 参加者】

- ・高校の在り方について、市町村から具体的な再編案等を県に示せばいいのか。それとも、話し合いながら、再編計画を考えていくということなのか。

(次頁に続く)

【 県教委 】

- ・ある程度、時間をかける必要もあり、様々な可能性について検討していきたい。

【花巻市 参加者】

- ・岩手県として人口減対策に取り組んでいる。働く場・医療（病院）・学校（高校）が地域にあって、町がある。
- ・市町村に学校がなくなればどうなるかということを考え、生徒に対する通学支援をすれば統合してもいいということではなく、バランスのとれた地域の発展を考えた高校再編に取り組んでほしい。

【花巻市 参加者】

- ・小規模校では、普通科の設置だけで高校を存続させることは難しい。他県には醸造科を設置しているところもある。県内では、葛巻町、紫波町、大迫地区、江刺区は果樹栽培が盛んであり、産業に特化した学科を併設する方法もあるのではないかな。
- ・県内外から入学するとなると、寄宿舎の設置等も検討する必要がある。地元の小規模校存続のためにも、寄宿舎の設置を検討いただきたい。

【花巻市 参加者】

- ・基本的方向では、小規模校への配慮があり、感謝している。しかし、言葉だけで終わることのないようにしてほしい。
- ・中学校卒業生のうち、切磋琢磨できる環境で学習できるのは約6割、1割は特別支援で学び、残り3割の生徒にとって小規模校が必要である。
- ・大迫高校の生徒は、先生方の指導もあり生徒が生き生きとした表情をしている。実態を見て高校の評価をしていただきたい。

【花巻市 参加者】

- ・教育の機会の保障について、ブロック内でもそれぞれの地域事情が異なることから、ブロック全体として高校の再編を考えてもらっては困る。
- ・都市部の高校は募集定員を多くし、大迫高校のような小規模校の定員を少なくするという設定はいかなものか。1学級校は存続させ、6学級校の規模を小さくすることが、教育の機会の保障になるのではないかな。

【花巻市 参加者】

- ・来年度の募集定員が分かるのはいつ頃か。
- ・大迫高校は24名が地区外から通学しており、同窓会として通学タクシーへの支援を行っている。また、花巻市からの通学補助についても若干増額された。
- ・大迫高校には、特別な支援が必要な生徒も入学しているが、立派に高校を卒業している。学校と地域が一緒になって生徒を育てている小規模校を存続させてほしい。

【 県教委 】

- ・来年度の募集定員（学級数）については、例年、10月の教育委員会議会で決定している。その前の8月には、今年度の入試状況等を踏まえた、来年度の編制案を示している。

【矢巾町 参加者】

- ・生徒の支援体制の充実について、特別支援学校の高等部では、増え続ける生徒の教育課程について検討が始まると聞いている。高等部で教育課程を新たに検討することで、中学校の通常学級に在籍した生徒で、ある程度学力がある生徒も高等部に入学してくることも考えられる。 （次頁に続く）

- ・高校教育の教育課程でもやっていけるような生徒が、高等部に入学してくるようになっては、高校が目指す姿に逆行することにもなるので、十分な情報交換をしながら岩手の高校教育を検討いただきたい。

【 県教委 】

- ・特別支援学校高等部への入学者が増えている背景には、特別支援教育への理解が広まったこともあると考える。高校の場合、入試で合格しなければ入学できないので、そのことに不安を感じる生徒・保護者がいると思う。高校教育として、生徒・保護者の不安を軽減する働きは必要であり、障がいのあるなしは、入試あるいは高校合格に関係ないことを理解していただくよう努めたい。
- ・高校にもより障がいのある生徒への支援の必要があることを理解してもらう必要があり、また、中学校にも理解を求めながら、中学生への進路指導を行ってもらう必要はある。
- ・県教委としても、かがやきプランにより支援が必要な生徒が在籍する学校に対し支援員を配置する等の取り組みは行っており、高校側の理解も着実に広がっている。